

静岡県内勤労者の仕事と生活意識調査(第17回)

【1000人を超える静岡県内勤労者から回答】

●調査時期/2024年5月 ●回答者総数/1196名(男595名、女601名) ●調査方法/インターネット調査
静岡県内在住の勤労者約1000人を対象としたWEB調査。2016年5月の初回以来、年2回定期的に実施。
2024年5月の今回は第17回目の調査となった。

性別

男性	女性
595	601
49.7%	50.3%

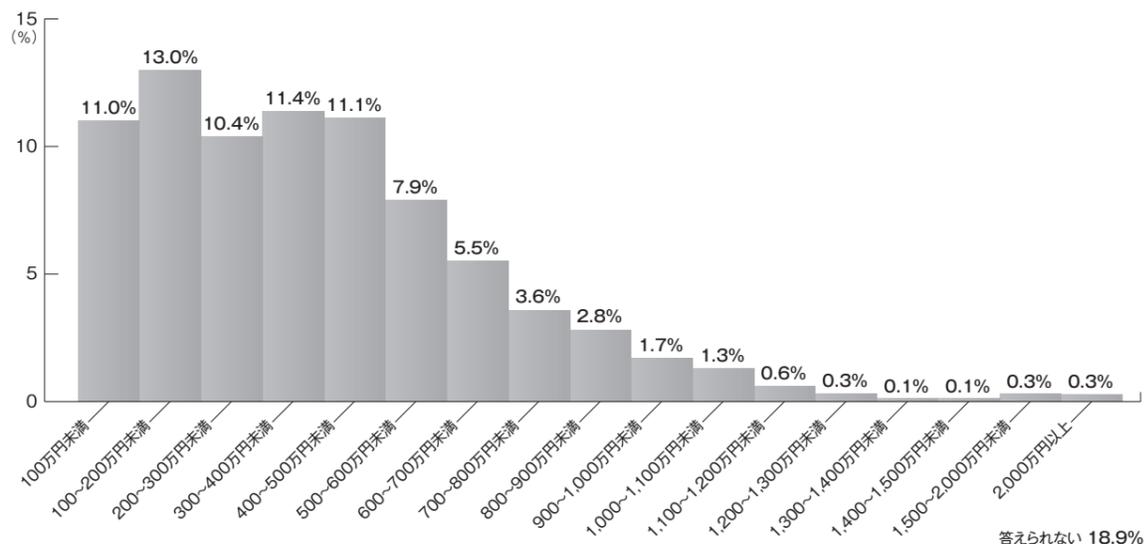
年齢

20歳~29歳	30歳~39歳	40歳~49歳	50歳~59歳	60歳以上
76	239	346	401	134
6.4%	20.0%	28.9%	33.5%	11.2%

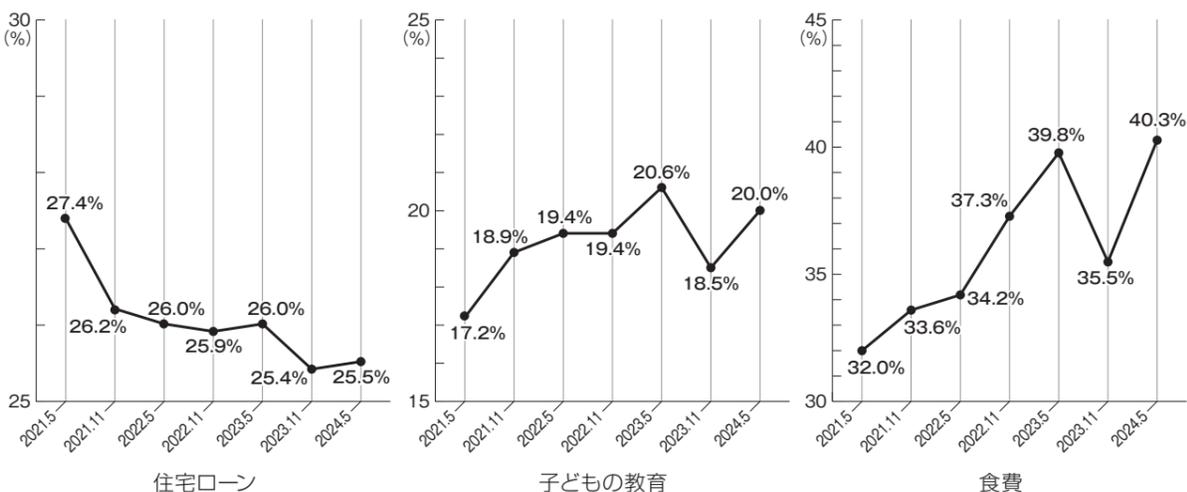
雇用形態

正規社員	非正規社員
746	450
62.4%	37.6%

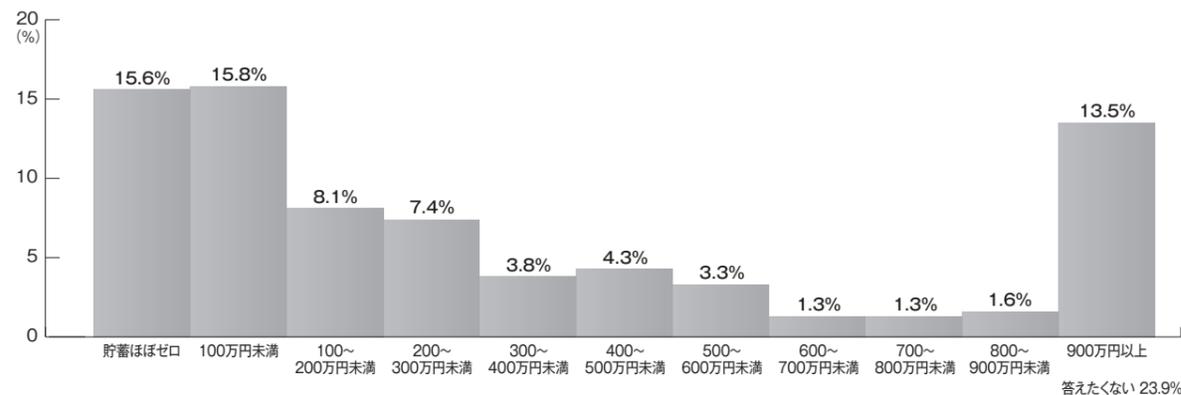
本人の年収



現在あなたの家計支出で「大きな負担」と感じているもの (複数回答・一部抜粋版)

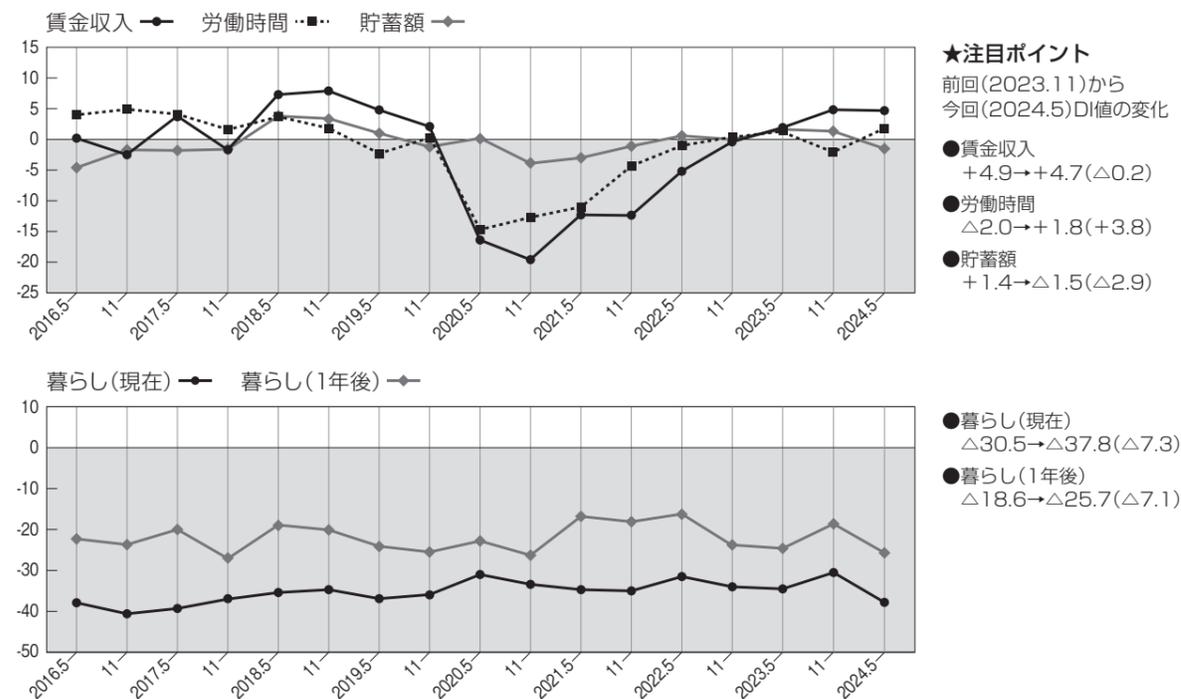


貯蓄額



勤労者DI-Diffusion Index 選択比率の差から動向を把握するための指標

「賃金収入」:1年前と比べて「増えた」・「変わらない」・「減った」
「労働時間」:1年前と比べて「長くなった」・「変わらない」・「短くなった」
「暮らし」(現在):「余裕がある」・「普通」・「厳しい」
「暮らし」(1年後):「ゆとりができる」・「変わらない」・「苦しくなる」・「わからない」



今回調査の注目ポイント

●食費の負担感が増している
「現在、あなたの家計支出で「大きな負担」と感じているもの」についての質問で、「食費」と回答する割合が前回調査では若干減少したものの、今回の調査では40.3%となり、過去最高となった。2年前の2022年5月調査では34.2%、1年前の5月調査では39.3%に上昇、今回調査では40.3%となり、2年前に比べて6.1ポイント、1年前からは0.5ポイント上昇している。2022年来の食品価格の値上げの影響が家計に大きな負担となり、長期化していると考えられる。

●賃金収入は前回の増加傾向から減少傾向へ
勤労者DI推移について、賃金収入は前回調査(2023年11月)と比べ減少傾向(△0.2)となり、貯蓄額も△2.9と減少傾向となった。2024年度も実質賃金の下落は続いているが、賃上げの動向とともに賃金収入のDI値の変動にも注視が必要である。「暮らし」は現在(△7.3)、1年後(△7.1)ともに悪化傾向を示した。これも実質賃金下落の影響が、生活状況の実感や先行きには明るい見通しが立たない状況であると考えられる。